

## 今後の議論のポイント（案）

- 人口減少や高齢化、AI や IoT などのイノベーションの進展を受け、10年後の建設市場はどのようになっているのか
- 確実に到来する労働力人口の減少を見据え、建設業の担い手確保にどのように取り組むべきか
- 他産業との比較も踏まえ、建設産業は生産性向上や働き方改革にどのように取り組むべきか
- 建設業に関連する制度の基本的枠組みをどのように評価し、どう再検討すべきか

## 【各論の例】

- ・ AI 化、IoT 化が進んだ場合の施工の現場を踏まえ、技術者の配置などの規制はいかにあるべきか
- ・ 昭和世代とは労働観の違う若者の入職・定着を図るためには、労働環境・条件をどう整えるべきか
- ・ 後継者難や規模縮小が懸念される地方建設企業が、今後も「地域の守り手」として活躍し続けるためにはどのような環境整備が有効か
- ・ 消費者の安全・安心のニーズの高まりに対応して、工事の品質確保のためにどのような施策を講じるべきか
- ・ 民間工事の分野で、生産性の向上、労働環境の改善、関係者の協力体制の構築などにどのように取り組むべきか
- ・ 生産性の向上や働き方の改善に積極的に取り組む企業をどう評価すべきか
- ・ 建設企業がCMなど請負工事の外にある仕事も含めて事業を行うようになる場合の契約制度や許可制度はいかにあるべきか
- ・ 今後技術職員の不足等が見込まれる中、いかにして効率的かつ持続的な発注制度を構築し、普及させていくか